

コメント

1 マイコプラズマ肺炎

定点当たり7.67人の報告があり、多い状況が続いています。肺炎マイコプラズマという細菌に感染することによって起こる呼吸器感染症で、小児や若い人の肺炎の原因として、比較的多いものの一つです。

長引く咳が特徴で、感染経路は飛沫感染と接触感染です。手洗いの励行、咳エチケットなど、感染予防対策を心がけましょう。

2 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

定点当たり0.83人の報告がありました。引き続き、基本的な感染予防対策に取り組みましょう。

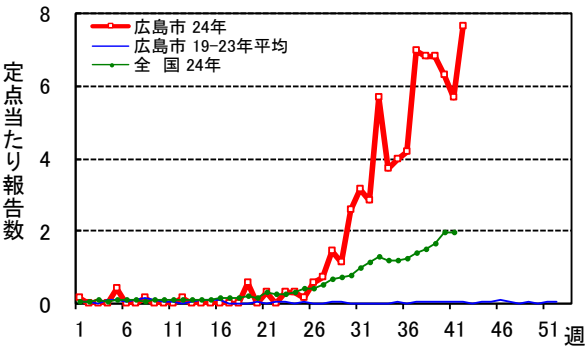
3 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

今年初めての報告が1件ありました。(次ページ参照)

4 感染性胃腸炎

定点当たり3.26人の報告があり、前週の約1.4倍に増加しました。こまめな手洗い、便・吐物の適切な処理、次亜塩素酸ナトリウムを用いた消毒など感染予防対策を心がけましょう。

マイコプラズマ肺炎の流行状況



定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注)	発生記号
インフル	インフルエンザ	10	0.28	2.98	↓	小児科	ヘルパンギーナ	1	0.04	0.85	
	新型コロナ(COVID-19)	30	0.83		◇		流行性耳下腺炎	1	0.04	0.09	
小児科	RSウイルス感染症	1	0.04	0.44		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	咽頭結膜熱	5	0.22	0.25			流行性角結膜炎	7	0.88	0.73	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	38	1.65	1.10	◇	基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	75	3.26	2.28	◇		無菌性髄膜炎	-	-	-	
	水痘	3	0.13	0.06			マイコプラズマ肺炎	46	7.67	0.03	◇
	手足口病	34	1.48	1.45	◇		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	-	-	0.08			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	突発性発しん	4	0.17	0.40							

急増減 ↑ ↓ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減

微増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減

横ばい ⇐ ⇒ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ/COVID-19定点数(小児科定点を含む)	36
小児科定点数	23
眼科定点数	8
基幹定点数	6

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	87	70歳代、80歳代
4	重症熱性血小板減少症候群	1	1	80歳代・市外
4	レジオネラ症	1	18	70歳代
5	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	6	50歳代
5	梅毒	5	137	20歳代・3人、40歳代・2人

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			インフル エンザ	(C O V I D - 1 9) 新 型 コ ロ ナ 感 染 症	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細 菌 性 髄 膜 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	クラ ミ ジ ア 肺 炎	(ロ タ ウ イ ル ス) 感 染 性 胃 腸 炎
報 告 数	広島市	第38週	3	52	6	5	25	60	4	57	1	6	7	-	-	9	-	-	41	-	-
		第39週	7	55	4	2	43	61	6	50	-	4	3	-	-	7	-	-	41	-	-
		第40週	18	54	7	1	33	48	1	38	-	7	2	-	-	5	-	-	38	-	-
		第41週	21	27	12	5	56	54	3	44	2	5	1	-	-	6	-	-	34	-	-
		第42週	10	30	1	5	38	75	3	34	-	4	1	1	-	7	-	-	46	-	-
定 点 当 た り	広島市	第38週	0.08	1.44	0.26	0.22	1.09	2.61	0.17	2.48	0.04	0.26	0.30	-	-	1.13	-	-	6.83	-	-
		第39週	0.19	1.53	0.17	0.09	1.87	2.65	0.26	2.17	-	0.17	0.13	-	-	0.88	-	-	6.83	-	-
		第40週	0.50	1.50	0.30	0.04	1.43	2.09	0.04	1.65	-	0.30	0.09	-	-	0.63	-	-	6.33	-	-
		第41週	0.58	0.75	0.52	0.22	2.43	2.35	0.13	1.91	0.09	0.22	0.04	-	-	0.75	-	-	5.67	-	-
		第42週	0.28	0.83	0.04	0.22	1.65	3.26	0.13	1.48	-	0.17	0.04	0.04	-	0.88	-	-	7.67	-	-
全国		第40週	0.78	3.08	0.33	0.24	1.92	2.68	0.13	8.62	0.27	0.27	0.39	0.03	0.02	0.42	0.04	0.05	1.94	-	-
		第41週	0.89	2.38	0.32	0.22	2.00	2.63	0.15	10.78	0.25	0.25	0.38	0.03	0.01	0.50	0.02	0.06	1.95	-	0.01

【参考】ダニ類が媒介する感染症に注意しましょう！

ー重症熱性血小板減少症候群(SFTS)／つつが虫病／日本紅斑熱ー

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)は、SFTSウイルスを保有するマダニに刺されることで感染します。

患者は、マダニの活動が盛んな春から秋にかけて、西日本を中心に報告されていますが、徐々に患者発生が確認される地域が広がっています。潜伏期間は6～14日程度で、発熱や消化器症状を主な症状とし、重症化すると死亡することもあります。

このほかに、ダニ類が媒介する主な感染症としては、マダニが媒介する日本紅斑熱があり、春から秋にかけて患者が発生します。また、ダニの一種であるツツガムシが媒介するつつが虫病は、春から初夏及び秋から初冬に患者が発生します。

ダニ類が媒介する感染症の予防には、ダニ類に刺されないようにすることが重要です。

【ダニ類に刺されないために】

- ◆ 山や草むらに入るときは、長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴などを着用し、肌の露出を少なくする。
- ◆ 屋外活動後は入浴し、ダニ類が付着していないかチェックする。
- ◆ DEET(ディート)やイカリジンを含む虫除け剤に補助的な効果があると言われている。

【ダニ類に刺されたときは】

- ◆ ダニ類が吸着していた場合は、無理に引き抜こうとせず、皮膚科などを受診し除去してもらう。
- ◆ 数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、すみやかに医療機関を受診する。その際、ダニ類に刺されたことを医師に説明する。

【参考】ダニ媒介感染症(厚生労働省)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>



山や草むらに入るとき
の服装

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/infectious-disease/>



【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp